

議 会 だ よ り

まるもり

Miyagi Prefecture
Marumori Town Assembly
News

第 265 号



2023. NOV
令和 5 年 11 月 1 日

発行 宮城県丸森町議会
編集 議会広報常任委員会



天空の里 筆甫に向けてGO !

(表紙のことは …… 22ページ)

9 月議会

復興へ大きく前進	2ページ
災害・コロナ・物価高の決算	4ページ
子どもにつないでいこう 未来のまるもり	9ページ
一般質問 9名の議員が町政を問う	10ページ



まあるい森の里からごんにちわ

復興へ大きく前進

9月議会のあらまし

9月議会定例会は、9月1日から14日まで14日間の日程で開催しました。

主な議決内容

- ◆令和4年度各種会計決算の認定
- ◆報告 1件
- (決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率の報告)
- ◆副町長選任の同意
- ◆教育長任命の同意
- ◆教育委員任命の同意
- ◆条例の一部改正 2件
- (選挙公報発行に関する条例の一部改正 ほか)
- ◆工事請負契約締結 1件
- (5道改第9号 中原線道路改良工事)
- ◆一般会計ほか7会計の補正予算

審議の結果、町長提案の議案等を、すべて原案どおり可決しました。

一般質問は9人の議員が行い、自らの考えを交え町長や教育長に質問するなど、活発な議論を行いました。

議会最終日には、令和4年度決算をすべて認定し、決算審査の過程で上がった要望事項を議員発議で町長に提出しました。また、請願審査結果の報告は3ページ、特別委員会の中間報告は、21ページのとおりです。

議決結果の一覧はホームページに掲載しています。



主な補正予算

台風被災箇所の工事等に
2億805万円

台風災害復旧工事の補助対象外となっていた、町道75箇所の工事をする予算等を承認しました。

今後も復旧していない箇所が無いか調査を継続し、復旧完了を目指します。

畜産業の飼料代支援に 2400万円

配合飼料価格の高騰で、経営に影響を受けた農家を支援するため、補助金を交付する予算を承認しました。

補助金額は、成牛（乳用牛・肉用牛）1頭1万円、肥育牛1頭5000円、豚1頭400円、鶏1羽30円です。

入学者全員に体操着支給 239万円

入学にかかる家庭の経済的負担を軽減するため、令和6年度小中学校入学予定者全員に、体操着上下、半袖Tシャツ、ハーフパンツを支給する予算を承認しました。



牛の健康や受胎に欠かせない購入飼料



中学校新生に支給される体操着一式

条例制定

町議選立候補者の選挙公報が発行可能に

町議会議員選挙で選挙公報を発行できるように条例を改正しました。

11月12日に予定されている町議会議員選挙から、立候補者の経歴や政見等を掲載した選挙公報が発行されます。町ホームページでも確認できるので、ぜひ選挙公報を読み、一票を投じてください。（※選挙が無投票になった場合は発行されません。）

副町長・教育長・教育委員の再任を同意

副町長の選任、教育長・教育委員の任命に関する議案は、議員全員が同意しました。

◆副町長（再任・任期4年）



高橋 重之 さん
木沼字堀内

◆教育長（再任・任期3年）



佐藤 純子 さん
丸森町字除北

◆教育委員（再任・任期4年）



水沼 智恵 さん
金山字下片山

請願審査の結果

子どもの医療費助成県の一律実施を求める意見書提出は不採択に

9月1日に「宮城県の乳幼児医療費助成制度（子どもの医療費助成制度）について県に対する意見書採択を求める請願書」を、総務民生常任委員会に付託しました。

総務民生常任委員会では、会議を3回開催し、請願の審査を行いました。

審査の結果は、本町では宮城県町村会を通じて本請願と同趣旨の要望をしており、県では、恒久的な財源確保に課題があるため、国に全国統一の制度を創設するように要望するなど既に対応していることから、請願は「不採択」と委員会報告がありました。

質疑・討論の後に起立採決を行い、請願に賛成3・反対9となり、委員会報告のとおり可決しました。

賛成討論

山本明徳議員

住民の意をくみ取って

本町の子ども医療費助成は自主財源で実施しており、県が助成を拡充すれば、町は別の施策に予算を回すことができる。また、多くの議会が法に基づき意見書を提出することで、県や国を動かす力となる。

議会は住民の立場に立ち、良いものは良いと判断すべきと考え、請願に賛成する。

反対討論

宮本昭雄議員

既に要望している

町はすでに町村会を通し、子ども医療費助成の拡充を県に要望しており、県は更なる拡充は財源の面から難しいと回答している。

議会として更に県に要望しても、結果に結びつかないと思われる。県では国に助成を要請しており、今はその動向を見極める時期であり、請願に反対する。

一条 功議員

県で子ども医療費助成を

この請願は、子どもが経済的な不安なく医療を受けられるよう、子ども医療費助成に生じている地域格差を無くすため、県が助成することを求めている。

県負担となれば、町財源を新たな事業に充てることのできる。町の政策を後押しできる。請願に反対する理由はなく、賛成である。

県に請願すべき事項

鈴木美智子議員

地方自治法の請願審査において、地方公共団体あるいは当該議会の権限以外の事項であれば、不採択とするしかほかないとしている。県の予算や県から国への働きかけは県議会へ請願すべきであり、町議会で議決できるものでなく、権限外であると考える。請願には反対である。



丸森町議会議員選挙立候補予定者説明会
(令和5年10月6日)

災害・コロナ・物価高の決算

決算認定に関連した総括質疑の中から取り上げました

結婚推進事業の取り組みは

問 結婚推進事業を、どのように進めているのか。

答 結婚を希望する男女が、結婚できる環境の整備や支援を進めると共に、結婚新生活支援についても、国・県の事業を活用しながら補助を行っている。
また、町内に民間の結婚相談所が開設されたので、連携して推進に取り組む。

高齢者の健診は

問 後期高齢者保険事業の健康診査事業対象者が2452名で受診率が21・6%と低い、理由はなにか。

答 申込が987名で受診率は530名だった。
受診を忘れたり、家族が申し込んだが本人が理解してなかったりと理由は様々で、受診率向上に周知方法などを検討していく。



令和4年11月22日（いい夫婦の日）に民間の結婚相談所と協定を締結

姉妹都市・国際交流事業は

問 姉妹都市交流や国際交流事業の推進に向けた取り組みは。

答 現在、姉妹都市として提携しているのは、ヘメット市と北見市である。
新たな姉妹都市提携の予定はないが、国際交流事業については、オンライン等での交流も含め検討していく。

被災した子どもの支援は

問 台風19号で被災した子どもたちの居場所づくりはどう取り組んだのか。

答 被災規模が甚大な丸森地区と金山地区で月3回の学習支援と、月1回の子ども食堂を実施した。
ニュースポーツやアートイベントなどでも心のケアに取り組んだ。



ザンビア共和国から来た農業研修生（大張沢尻棚田）

企業誘致の推進状況は

問 企業誘致が進んでいないようだが、どんな活動をしてきたのか。

答 東京と名古屋での宮城県企業立地セミナー等に参加し、町内外の企業に企業立地奨励金等の優遇制度を説明し、規模拡大の意向を聞くなどしてきた。
確実に企業誘致ができる方策を講じていく。

受益者負担の精算は

問 農地災害復旧工事の受益者負担について、手続きの進捗は。

答 工事が完了している分は、令和5年度中に通知を送付するよう、準備を進めている。
また、工事が未完了の分は、完了後に精算等を行うため、令和6年度以降の発送となる分もある。



「宮城県企業立地セミナー in Nagoya」でまちをPR

町産材の活用は

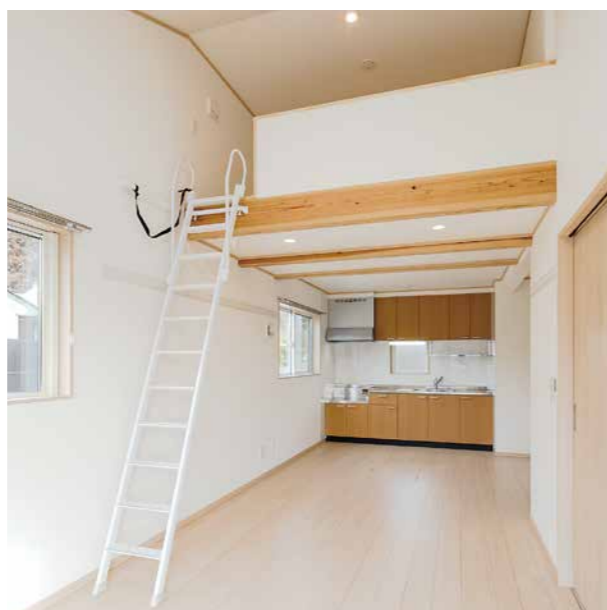
問 町産材を町営住宅に使用したように、ほかの公共施設にも十分活用できると思うが、どんな考えなのか。

答 公共施設に積極的に活用し町産材の利用価値を高めると共に、名札などの庁舎で使用する事務用品での利用を進める。

小学校再編の成果は

問 小学校8校が2校に再編されたが、その成果は。

答 集団となる事で同級生やクラスで、共同で学ぶ環境整備ができた。
また、教師主導だった行事で高学年がリーダーシップを取り、低学年を引っ張るなど、人間関係の醸成に子どもたちの主体的な動きが見られた。



町産スギ材を活用して整備された町営住宅

会期中4日間にわたり、町長、副町長、教育長等及び担当課長等の出席を求め、令和4年度の決算審査を行いました。質疑の一部を要約してお知らせします。



命の水を確保 大規模な井戸掘り工事 (大張地区)

井戸掘り補助の増額は

問 井戸を掘る費用は、いくらかかるのか。
また、補助金の増額が必要ではないか。

答 令和4年度には2件の申請があり、最大で190万円かかった世帯もあった。現在、補助金額は30万円だが、増額を検討している。

特別教室へのエアコン設置は

問 中学校の特別教室にはエアコンが設置されているが、小学校の理科室等特別教室には設置しないのか。

答 小学校図書室への設置に向け、令和5年度中に設計を委託し、令和6年度に工事予定である。他の特別教室についても、できる限り対応していきたい。

防ステと町観光対策は

問 整備が始まった防災ステーションと町内の観光交流施設を、どう両立していくのか。

答 観光案内所を設置し、ほかの観光交流施設との差別化を図り、町内全体が潤うよう周遊に繋げていく。また、町ホームページなどで周知をしていく。

災害復旧工事の遅れは

問 復旧工事の遅れ、町道などの小災害復旧工事も遅れている。今後の進め方をどう考えているか。

答 工事は令和5年度末までに完了させたいと考えているが、現実には6年度への繰越工事が発生する。災害箇所調査漏れ工事も含め、全力を尽くして実施する。



令和7年度の完成を目指して工事が始まった防災ステーション建設現場



大切な観光資源の早期活用で賑わい創出を (天水舎)

天水舎の活用をどうする

問 不動産公園内の天水舎の管理者はどこか。
また、なぜ活用していないのか。

答 仙台ヘリテージツアーズムが、あぶくま荘と天水舎等を管理・運営している。今はあぶくま荘の経営に注力しているが、今後は宿泊施設の別棟としての活用も検討する。

有害鳥獣の処理実績は

問 げんようセンターの利用率が60%台と低い状況である。今後の運営に影響があるのではないか。

答 豚熱などの影響があり、捕獲頭数が減ったのが要因と考えられる。

また、駆除隊の高齢化や、埋設処理によって搬入されない場合もある。利用率の向上に向け努力する。

病院を維持するためには

問 外来・入院患者が減少しているため、経営状況に影響を与えている。地域密着型である病院の今後の改善策はあるのか。

答 医師の確保が重要であり、多臓器疾患にも対処していることを周知したい。また、みやぎ県南中核病院と連携し、入院患者、外来患者・訪問診療患者を増やしたい。

ため池の安全対策は

問 昨年度内で農業用ため池での痛ましい死亡事故が発生した。町内ため池の安全対策は大丈夫か。

答 町内には101箇所の農業用ため池がある。管理状況を調査し、危険と判断した箇所には注意喚起看板を設置した。また、そのうち、6箇所救助ネットを設置した。



安全対策として設置された救助ネット (大内地区)

まちづくりへの要望

所管事務調査、決算審査を通じ、各常任委員会から出された要望事項を取りまとめ、議会として9項目を町長に要望しました。



がんばろう中学生（9月にスタートした完全予習型町営学習塾）

子どもにつないでこころ
未来のまるもり

- ◆ 町営学習塾に対する町民の期待が大きい。多くの生徒の参加を促しながら、効果の拡大につながる運営に努めること。
- ◆ 職員のスキルアップを図ると共に健康面にも配慮して、町民福祉の向上に資するよう努めること。
- ◆ 空き校舎の利活用をすすめ、地区住民の意見もくみ取り、町活性化につなげること。
- ◆ 人口減少対策のひとつである移住・定住推進は、移住・定住サポートセンターとの連携を強化して取り組むこと。
- ◆ 丸森病院の医師・看護師等の充足を図り、町民の健康維持と経営改善につなげること。
- ◆ 町の基幹産業である農林業の発展に向け、関係ビジョンの施策を確実に進めること。
- ◆ 河川防災ステーションは、防災力強化に加え、平常時の活用が町の活性化に大きく寄与する。観光を含めた町産業の振興につながるエリアになるよう整備すること。
- ◆ 災害復旧事業に計上されなかった被災箇所が多く存在する。早急な箇所の把握と復旧に全力で取り組むこと。
- ◆ 町税、住宅使用料、病院医療費等の収入未済額を縮減すると共に、新たな未納者の抑制に努めること。

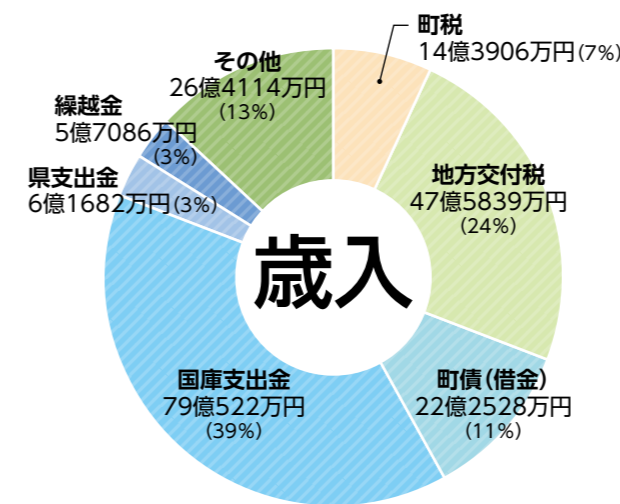
令和4年度 決算を認定

決算の審議結果

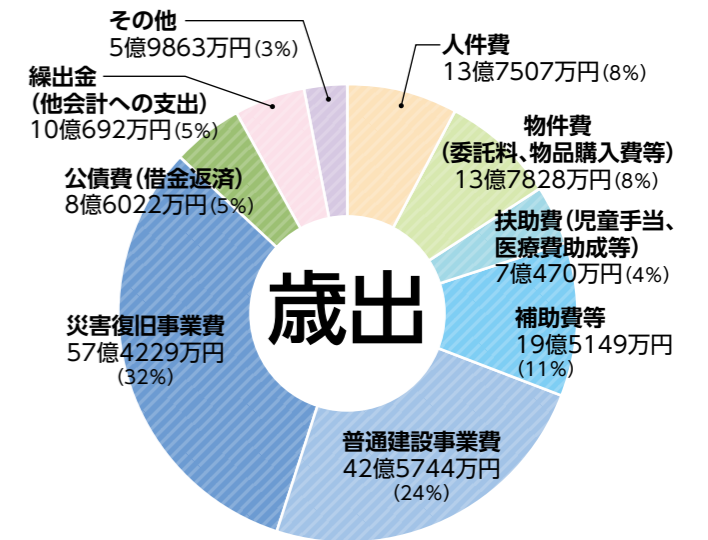
令和4年度歳入歳出決算（一般会計、国民健康保険特別会計など7つの特別会計、丸森町病院事業会計、丸森町水道事業会計の計10件）は、決算審査特別委員会において詳細に審査を行い、いずれの決算も認定しました。

一般会計決算はこうなりました

歳入総額 201億5677万円



歳出総額 178億7504万円



歳入歳出差引額 22億8173万円

令和4年度事業への繰越金 3億2518万円 (使途が決まっている繰越金)
 財政調整基金へ積立金 15億0000万円 (財源を調整するための積立金)
 令和4年度への純繰越金 4億5655万円

前年度との決算額の比較 (支出)

会計名	令和4年度	令和3年度	伸び率
一般会計	178億7504万円	154億839万円	16.0%
特別会計			
国民健康保険	17億384万円	16億9741万円	0.4%
後期高齢者医療	1億8376万円	1億6547万円	11.0%
介護保険	19億3144万円	20億3533万円	▲5.1%
宅地造成事業	78万円	40万円	95.0%
公共下水道事業	6億9465万円	5億7540万円	20.7%
工場団地造成事業	7974万円	300万円	2558.0%
農業集落排水事業	9121万円	1億887万円	▲16.2%
小計	46億8542万円	45億8588万円	2.2%
計	225億6046万円	199億9427万円	12.8%
病院事業会計			
収益的支出	11億5299万円	11億8553万円	▲2.7%
資本的支出	1億9558万円	1億8538万円	5.5%
水道事業会計			
収益的支出	3億6560万円	3億7666万円	▲2.9%
資本的支出	1億9388万円	3億4121万円	▲43.2%

※収益的支出とは、人件費や材料費など業務運営に係る支出。
 ※資本的支出とは、工事費や過去の建設工事のために借り入れたお金の返済など財産に係る支出。

一般質問 町政を問う

一般質問とは、町に対して事務の執行状況や将来に向けての考えをたずぬるものです。今回は9人の議員が質問しました。

ページ	議員	質問事項と回答
11	鈴木美智子	●福祉と介護の取組は 町長 ケアシステムを推進
12	一條己	●高齢者が住みたい町へ 町長 バリアフリー化を進める
13	板橋勇	●数社立地できる団地造成を 町長 考慮しながら進める
14	宮本昭雄	●農林業の持続的発展を 町長 支援強化に努める
15	山本明德	●無償教育へ近づけよ 教育長 入学時の負担を軽減
16	石井央	●復旧農地の遊休化防止策は 町長 地域と継続的に協議する
17	金森裕之	●防災情報の伝達強化を 町長 調査・研究を進める
18	船山俊一	●少子化対策の充実強化を 町長 総合的に推進していく
19	大槻正儀	●地球温暖化対策はいかに 町長 新計画を7年度に策定



福祉と介護の取組は

町長 ケアシステムを推進



鈴木美智子 議員



QRコード
一般質問動画

本町は高齢独居世帯や、高齢夫婦世帯が増加している。同居家族がいても就労中は高齢者一人となり、新たな課題があると見ている。それを踏まえた取り組みについて町長に問う。

問①国から令和7年を目途に地域包括ケアシステムの構築を求められており、6年度からの第9期介護保険事業計画は最も重要だと思いが、どう取り組むのか。

答①介護人材の確保、介護予防・日常生活圏ニーズ調査や在宅介護実態調査の結果と、人口動態や介護ニーズ等を考慮して、本町の実

情に応じた地域包括ケアシステムを深化させ、推進するための施策を検討する。

問②介護要支援以上で理美容院に行くのが困難な方は訪問理美容を利用しているが、自宅での受け入れが困難な世帯から通所介護利用時の理美容の要望がある。通所介護施設でも訪問理美容が利用できる体制が必要ではないか。

答②通所介護施設への訪問理美容は想定していないが、要望への課題や対応について検討する。

問③在宅介護が維持できるよう、介護の専門職が自宅に訪問して、要介護者の身体状況などに合わせた介護方法を介護者が習得するよう取り組んでどうか。

答③町での取り組みはないが県では、リハビリテーション専門職が自宅を訪問し、介護方法や助言を行う事業がある。

在宅介護の状況に応じて

この事業の活用につなげる。

問④物価高騰などで介護施設も光熱費などの経費が増し、経営に影響が出ている。サービス提供体制維持のために、町独自の支援が必要ではないか。

答④昨年度と今年度に国の臨時交付金で財政支援を行った。更なる支援は、今後の物価高騰の状況や国・県の動きを見極めて検討する。



いろんな福祉用具があって勉強になります (社会福祉協議会主催の介護教室)



いたばし 板橋 議員



QRコード
一般質問動画

数社立地できる団地造成を

町長 考慮しながら進める

問②現在造成中の金山工場団地面積は1.5haで、誘致企業も一社のみとなる非常に効率の悪い規模だ。今後、工場団地造成事業を計画する場合は、数社が立地できる面積を提案する。
答②今回の造成事業は、当初4ha規模で進めてきたが、種々の事情で縮小になった。

問①今後も町は、場所を特定しなくても、工場団地の造成を考えているのか。
答①造成は社会情勢を考慮しながら進めていく。

企業誘致に対する町の基本的姿勢等を問う。

問④令和4年度の工場団地決算書を見ると委託料・団地造成費・土地購入費等合計7905万円と、5年度造成工事費8530万円だとすると、金山工場団地の販売予想価格はいくらか。
答④本年度の事業費が確定していない。販売予定価格は誘致活動に影響するので、現時点では具体的な価格は示せない。



造成工事が進む金山工場団地（金山西新田地区）

問③完成予定は令和6年3月なので、東京と名古屋で例年行われる宮城県企業立地セミナー等で、今年度から、企業誘致活動すべきと提言する。
答③本町の地域特性や交通インフラの整備状況、県内外の産業集積状況、町の最大2億円の企業立地奨励金と雇用奨励金や町税免除等の優遇制度をアピールして、積極的売り込みを行ってきたい。

問⑤金山城址の石垣修復工事と、登り口の土砂崩落修復工事の進捗状況を問う。
答⑤本年11月末までに調査業務が完了する。調査結果を基に、専門機関と協議しながら慎重に進めたい。

問⑥完成時には金山城址を公園に指定してはどうか。
答⑥学術的に価値の高い資産であり、歴史的価値を伝承する本町の貴重な史跡として管理していくのが最適と考えている。

高齢者が住みたい町へ

町長 バリアフリー化を進める

一人暮らしの高齢者が、565人となった。しっかりと自立して元気に暮らしている方が多いが、一方で健康面などの不安を抱えて生活している方もいる。高齢者の身体と心のバリアフリー施策について問う。

問①町所有のバスを高齢者や障がい者にも乗り降りしやすいノンステップバスにして、視察や研修への参加意欲を増やしてはどうか。
答①町所有のマイクロバスは、早急な更新が必要ではない。将来の更新の際には、町民が利用しやすい車両の導入を検討する。



いちじょう 一條 議員



QRコード
一般質問動画

問②百々石公園は頂上まで道路を舗装することで車が登れるようになり、車椅子でも移動できるバリアフリーの公園になる。高齢者の方々に昔、子どもを連れて登った、あの阿武隈川の風景などの思い出がある。せつかく毎年きれいに管理しているの皆さんに楽しんで



高齢者にも見せたい百々石公園からのなつかしい景色

んでもらってはどうか。
答②公園の再整備を検討している。バリアフリー化は、道路幅や傾斜路の勾配等の基準を満たすことが求められ、改修は困難であるが、自然に親しむことのできる魅力的な公園にしていく。今後、高齢者や障がいのある方が安心して住めるよ

う、引き続きバリアフリーに向けた取り組みを進める。
問③高齢者の外出を促進するために、入浴施設を充実させてはどうか。
答③入浴施設としてあくまでま荘があるが、まずは閉じこもり予防の充実と、心身の活力が低下したフレイルの状態の改善や予防が重要である。現在、筋力アップ教室やふれあいサロン事業、閉じこもり・認知症予防教室等を行っている。

問④いきいき交流センター大内を温泉のある直売所としてはどうか。
答④大内の国道113号線沿いについては、湯温が27度と低く温泉は難しい。

※フレイルとは
加齢とともに、筋力や心身の活力が低下し、介護が必要になりやすい、健康と要介護の間の虚弱な状態のこと。



かなもり ひろゆき 議員
金森 裕之



QRコード
一般質問動画

防災情報の伝達強化を

町長 調査・研究を進める

気候変動の影響により、台風や大雨災害は激甚化・頻発化している。近年の自然災害では「命を守る行動」に関する迅速かつ正確な情報が求められていることから、町長に問う。

問① 昨年6月の定例会で、防災無線の改善と室内戸別受信機の設置を提案したが、整備困難との答弁であった。令和元年東日本台風の教訓を生かし、屋外スピーカーの増設や戸別受信機の導入を、積極的に進めるべきと考え再度、提案する。

答① 通信環境などの課題があり、多額の費用を要する。

問② 災害発生時や、発生が予測される場合、避難所への移動手段として町車両やスクールバス等を活用してはどうか。

答② 避難者の実態把握と、車両運行の安全性を確保し配車するのは、現実的に困難である。

問③ 災害公営・町営住宅での自主防災組織の体制づくりを、どう進めていくのか。

答③ 整備が完了した住宅入居者は、それぞれが所在する行政区の自主防災組織に加入することになる。

自主防災組織の活性化は、地域コミュニティの再生と合わせ、関係者間で連携しながら、解決に努めていく。

問④ 昨年6月に「丸森町地域防災計画」が改訂され、東日本台風災害検証を踏まえた基本方針及び改善内容



自然災害から身を守るための情報発信（庁舎屋上の防災行政無線）



いしひろ 議員
石井 央



QRコード
一般質問動画

復旧農地の遊休化防止策は

町長 地域と継続的に協議する

人口減少、少子化が深刻な本町では、令和元年東日本台風による大災害で、一層の過疎化が懸念される。以下を町長に問う。

問① 農地復旧後の中山間地の遊休農地発生防止策と、地域活性化策は。

答① 地域の担い手農家や団体と協議を重ね、被害の大きい羽出庭地区では令和5年3月に集落営農法人「美ファーム羽出庭」が設立された。若者の参画を呼びかけ地域活性化や移住者受け入れ等将来展望も描いている。農家数が大幅に減少した筆甫地区においては、住民



保全活動を行う美ファーム羽出庭（丸森地区）

自治組織である振興連絡協議会が営農事業に参入することを後押しした。今後、継続的な話し合いにより必要な支援策を講じ、農地の遊休化防止と地域活性化を図る。

問② 内川、五福谷川、新川流域山林の土砂災害防止のため、保安林指定を県に要望すべきと考えるがどうか。

答② 保安林は税の免除等の優遇処置がある一方、立木等の伐採や形質変更は県知

事の許可を得る制約がある。必要性があると判断した場合は、所有者の意向を踏まえ県に要望する。

問③ 国が整備する3河川遊砂地での、町、地域、関係団体の今後の取り組みは。

答③ 五福谷川は、地域住民の提言を参考に整備するとともに、天皇后両陛下が見舞われた地であることを後世に伝える行幸啓記念碑建碑の検討を進めたい。内川、新川遊砂地についても地域、関係団体と連携し、利活用が図れるよう検討を進める。

問④ 将来を担う人材確保策として、給付型奨学金制度の創設の考えはあるか。

答④ 若者の定住促進、地元就職促進のため、奨学金返還に対する補助金を交付する「奨学金返還支援補助金制度」に取り組むため、慎重に検討する。

が示されている。今後、災害検証委員会の提言をどう減災に反映し、対応や対策を履行していくのか。

答④ これまでの改善状況として、防災教育・講話の実

施や、丸森町防災マップの改訂、消防設備などの整備を行ってきた。今後も、実効性のある町防災対策に努めていく。



おおつき まさよし 議員
大槻 正儀



QRコード
一般質問動画

地球温暖化対策はいかに

町長 新計画を7年度に策定

令和元年東日本台風の被災から今年で4年となり、現在、本町では災害に強いまちづくりを強力に進めている。国内外では、大雨・大型台風による災害が毎年頻発し、海水温の上昇等による、異常な気温の高まりなど、生活や環境に深刻な影響を与えている。町の地球温暖化対策推進について問う。

問①地球温暖化対策推進法は、国内全部の自治体に、温室効果ガス排出量削減等のための実行計画の策定と実施状況の公表を義務付けている。

答①本町の、令和2年の年間平均気温は13.3度で、昭和58年と比較して2度も上昇している。

問②現行の丸森町環境基本計画は、地球温暖化防止に貢献、再生可能エネルギーの活用等を地球環境施策の大きな柱としている。

答②令和5年3月に森林活用と町活性を図るため林業振興ビジョンを策定した。農産物直売所での新販売や、薪ストーブ普及を推進し、広葉樹の利用拡大に努

問③町独自の少子化対策を打ち出し、積極的に推進していくことは重要である。子どもへの給付金や入学祝金の増額支給、結婚支援の強化などの施策に、スピード感を持って取り組むべきではないか。

答③少子化対策や子育て支援の充実、町民の幸せのための最優先事項である。総合的に進めていきたい。



田んぼにも大きな影響 地球温暖化

少子化対策の充実強化を

町長 総合的に推進していく

民間コンサル企業の調査によると、本町において、1人の女性が一生の間に産む子どもの数の平均を表す合計特殊出生率と、婚姻力は県内最下位で、さらに女性の転出超過率が高いという結果が示された。この観点から、今後は現在行っている少子化対策に加え、若い世代が安心して結婚・妊娠・出産・子育てができ、女性が活躍できる環境づくりが重要となる。少子化対策を町長に問う。

問①女性の働く場の確保や、住みよい住環境の整備など、女性の町外への転出抑制に



秋の運動会で元気いっぱい競技する子どもたち（丸森たんぼぼこども園）

問②少子化対策にもつながら、男女共同参画を踏まえ、本町の女性の活躍推進に向けた環境整備を、今後どう

答②女性自身が自らしく働く場所や、機会が増えることで、仕事と家庭を両立しやすくなり、出産・子育てとの調和が図られる。また、家庭や地域社会においても、男性が家事や育児に参加する機会を確保し、共に子育てを支えるような取り組みが、少子化問題の解決に寄与する。男女共同参画に対する町民理解の促進を図るため、啓発活動を推進していく。



ふなやま しゅんいち 議員
船山 俊一



QRコード
一般質問動画

向けどう取り組むのか。
答①女性が移住やUターンしたくなる施策を検討するとともに、子育て世代の移住推進のため、定住促進事業や起業支援、通勤可能圏内の就業先のPR、本町に

住む良さや魅力等を、効果的に情報発信していく。

問③町独自の少子化対策を打ち出し、積極的に推進していくことは重要である。子どもへの給付金や入学祝金の増額支給、結婚支援の強化などの施策に、スピード感を持って取り組むべきではないか。

答③少子化対策や子育て支援の充実、町民の幸せのための最優先事項である。総合的に進めていきたい。

役場の仕事を

千エツク

2つの常任委員会、所管する課に属する事務に關し、課題を決めて聞き取りや現地調査を行いました

総務民生常任委員会

この調査に注目

◆企画財政課
「地域おこし協力隊の活動と成果・課題」

◆委員長コメント
「協力隊員の確保に向け、更なる工夫を」

協力隊員は町にとって貴重な人材で、様々な場面で活躍している。

しかし、全国各地で募集が増えており、人が集まらない状況である。

受入団体等との更なる連携や、有効な募集方法を検討するなど、協力隊員の確保につなげて欲しい。

他の調査項目

◆総務課
・職員研修の成果及び人材育成・能力開発

◆企画財政課
・姉妹都市交流事業の現状と課題

◆子育て定住推進課
・移住・定住促進事業の取り組みと実績
・子ども家庭総合支援拠点の業務と支援の充実

◆町民税務課
・不動産登記制度等の見直し
・マイナンバーカードの申請交付等の状況

◆保健福祉課

・丸森町健康日本21地域計画に基づいた保健事業の実績と評価

・新型コロナウイルス感染症の5類移行後の保健福祉事業の現状

◆丸森病院
・医療従事者の業務と今後の取り組み
・新型コロナウイルス感染症の診療・検査等の取り組み

産建教育常任委員会

この調査に注目

◆建設課、災害復旧対策室
「林道鷲の平線の復旧計画」

◆委員長コメント
「1日でも早い道路の復旧を」

林道鷲の平線の復旧完了は令和6年を見込んでいるが、町民の重要な生活道路であるため、1日でも早い道路の復旧を望む。

◆商工観光課

・観光振興計画の効果的な推進
・観光客の受け入れ体制充実と指定管理者との連携

◆農林課

・中山間地域における農業振興
・スマート農業の推進と課題

◆生涯学習課
・町営学習塾の推進

他の調査項目

◆建設課、災害復旧対策室
・五福谷北山線の復旧と改良計画



復旧工事の現場を調査する産建教育常任委員会（林道鷲の平線）

令和元年台風第19号災害対策調査特別委員会 活動報告

令和元年12月に特別委員会を設置し、災害対策調査等を29回行ってきました。昨年10月以降の活動について、お知らせします。

宅の入居状況、遊砂地整備計画に関する調査

8月 中間報告書の提出について協議

9月 中間報告書（案）について協議

活動の中間報告
復旧・復興は進むが、未完了 調査は継続

9月議会定例会において、委員会活動の中間報告を行いました。調査の結果、復興は進んでいるものの、農地の災害復旧工事は約7割が未完成であること、生活再建できていない被災者がいること、河川防災ステーションや直接放流管等のハード事業を控えていることなど、多くの課題が残されていることから、今後も引き続き調査を行います。

放射能汚染除染廃棄物仮置場等に関する調査特別委員会 活動報告

令和4年3月に特別委員会を設置し、仮置場の早期移設に向けた対応の調査等を行いました。今年8月以降の活動について、お知らせします。

8月 中間報告書の提出について協議

活動の中間報告
仮置場の諸問題は未だ山積み 調査は継続

調査の結果、仮置場等の現状や課題、今後の方針等について調査・検討を重ね、議会と町で環境省へ要望を行うなど活動してきましたが、仮置場の集約や撤去は、除去土壌の処分方針が未だ示されておらず、諸問題が山積していることから、今後も引き続き調査を行います。

令和5年 委員会開催内容
8月 竹谷仮置場移設準備業務の進捗状況の聞き取り、令和4年12月6日に町議会が町長に提出した「放射能汚染除染廃棄物仮置場等に保管されている放射能汚染除染廃棄物の早期移転等に関する提言書」の町の対応状況について聞き取り



五福谷川遊砂地※整備状況の現地調査

※遊砂地とは
大量の土砂が流れてきた際に、一気にまちの中まで流れ込まないよう、途中で一時的に受け止めるための地帯のこと。



町長に提出した提言書への対応状況について聞き取りした、調査特別委員会

令和4年 委員会開催内容
10月 復旧・復興計画実施計画書、災害公営・町営住宅整備の進捗状況に関する調査

令和5年 2月 復旧・復興の進捗状況に関する調査

8月 復旧・復興の進捗状況、災害公営・町営住宅に関する調査



陶芸猫神社で

まちおこしに奮闘

丸森地区

陶芸家 平野 照子さん

ふるさと丸森町の復興のため、新潟県からUターンし、ギャラリーショップ草舟をオープンした平野さんにお話を伺いました。

Q 陶芸を始めたきっかけは、どんなことでしたか。

A 高校卒業後、作業療法士を目指し新潟県の専門学校に入学しました。授業で初体験した陶芸に惹かれて陶芸教室に通うようになりました。

Q 勉強と作業療法士の仕事と陶芸を両立していたのですか。

A そうです。陶芸家のアシスタントを経て、自分の窯で作品を焼き、休日に自宅でギャラリーを開いて販売していました。

Q 帰って来た理由は何ですか。
A 役場職員だった亡き父の、まちのために働く姿が私に植え付けられて

いたのかもしれない。
令和元年東日本台風で被災して大変なのに何もできない、ふるさとを捨てた罪悪感があり、帰って自分のできる事をやろうと決断しました。

Q 今後どんな活動をしたいですか。

A SNSで猫絵柄の陶芸と、猫碑数日本一の丸森町を配信したところ、全国からお客さんが来町しています。町内数店舗に私の陶芸猫神社があります。店舗数を増やして、お客さんが回遊して御朱印を押すなど、猫碑と陶芸猫神社で、まちおこしにつなげたいです。

Q 町や議会に要望などありますか。

A 交通アクセスで来町を断念する人が多いので、来町する人の立場で、交通手段を充実してもらいたいです。
(鈴木 美智子 副委員長)

広報委員長挨拶

令和元年東日本台風により、未曾有の災害を被って間もない12月から、私たちの職務が始まり、本号をもって4年間16回の発行を無事終えることができました。

この間、素人集団の委員会ながら、希望・勇気・絆・復興・未来と言った言葉を意識し、自ら取材・撮影・編集を本気で行ってきました。

皆さんの手に取ってもらえたか。議会を理解してもらえたかは、不安の残るところですが、さらに良い紙面となるよう、次期委員会に引き継いでまいります。

表紙のこぼれ

大きな被害を受けた令和元年東日本台風後、2回目のサイクルフェスタが開催されました。参加者の皆さんは、最高の笑顔とパフォーマンスで出発しました。

参加者は373人とまだまだ最高時には届きませんが、災害復旧してきれいになった県道丸森霊山線を走るのは初めて。丸森町が誇る天空の里、筆甫では地域の皆さんが笑顔で再会のお出迎えをしました。

当日の朝は天候が心配されましたが、イベントが始まるとサイクル日和の過ごしやすい天気になりました。大会スタッフの皆さんご苦労様でした。

(二條 己 委員)



議会広報常任委員会

委員長	大槻 正儀
副委員長	鈴木美智子
委員	金森 裕之
	山本 明徳
	船山 俊一
	一條 己